

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	2	ぬくもり・雄武		整理番号	36
基本施策	10	地域福祉の推進	評価	町有施設整備室長 宇野 安久	
単位施策	4	人にやさしいまちづくりの推進	責任者		

1 施策の概要

基本方針	公共施設のバリアフリー・ユニバーサルデザイン化を推進するとともに、公益施設や住宅・事業所への波及をうながしていきます。				
現状と課題	【現状】（平成23年度末）		【現状】（平成26年度末）		
	公共施設の段差の解消など、施設面での福祉的な配慮を進め、誰もが安心して暮らせるまちづくりを推進している。高齢者等住宅改修支援事業は、平成22年度で終了したが、高齢者等の居住安定に向けた支援策を包含拡大した新たな施策を平成23年度から実施している。		公共施設のバリアフリー・ユニバーサルデザイン化の推進は図られつつありますが、まだ、福祉関係施設の段差の解消などのバリアフリー化が遅れている。		
	【課題】（平成23年度末）		【課題】（平成26年度末）		
	公共施設でバリアフリー化していない建物の改修の検討が必要であり、居住安定に向けた支援事業の啓蒙普及の取組が求められる。		福祉関係施設でバリアフリー化していない建物については、今後、施設を統廃合し集約化を図り、改修について取り組んでいく必要がある。		

2 基本施策指標

指標1	指標名	住宅改修件数					
	定義等	快適住まいづくり促進事業（高齢者向け改修を含む）の延べ利用件数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値		50件	50件	50件	50件	300件(H23~27)
	実績値		60件	89件	88件	86件	
指標2	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	【再掲】雄武町快適適住まいづくり促進事業	建築係	59,791	A	継続/現状維持	A
②						
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	町民の定住対策として、住生活の安定及び向上のための住環境整備のための事業であり、妥当である。
② 有効性	A	居住環境の向上が図られ、利用者件数も目標件数を上回り事業として成果が得られている。
③ 効率性	A	耐久性の向上や利便性の向上など、良好な住環境の確保及び住生活の安定は、定住対策及び子育て対策に向け効率的と判断する。
④ 公平性	A	良好な居住環境を確保することで、定住対策及び子育て対策が図られ公平と判断する
⑤ 町民意見の反映	A	居宅住宅の耐久性の向上、利便性の向上に取り組むことは当然である。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
新規公共施設では、ユニバーサルデザインを採用したバリアフリー化が実施され、誰もが安心して暮らせるまちづくりを推進し、事業所への波及効果も現れている。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
公共施設のバリアフリー化は、今後ますます進展する高齢化社会に向け、安心して暮らせるまちづくりの推進のためにも必要な施策であり、継続・現状維持が必要である。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止